

松阪牛

かわら版
18号

優秀賞1席 にしふく7号

畑 敬四郎さん



松阪牛の女王を決める「第64回松阪肉牛共進会」が11月24日、松阪市の農業公園ベルファームで開かれました。

審査の結果、最高の優秀賞1席には、多気町前村の畑敬四郎さんが育てた

「にしふく7号」が選ばれ、今年の最高額2,300万円で津市の朝日屋さんが落札しました。

畑さんの優秀賞1席は2年ぶり3度目。父、勝さんも過去に優秀賞1席に輝いたことがあり、親子合すると4回目の受賞です。

審査結果を聞いた敬四郎さんは満面の笑みで快挙を喜んでいました。

この日、ベルファームでは「松阪牛まつり」と題して、焼肉コーナーや地域産品の販売、すき焼き試食会などがあり、秋晴れの下、多くの来場者で終日にぎわっていました。



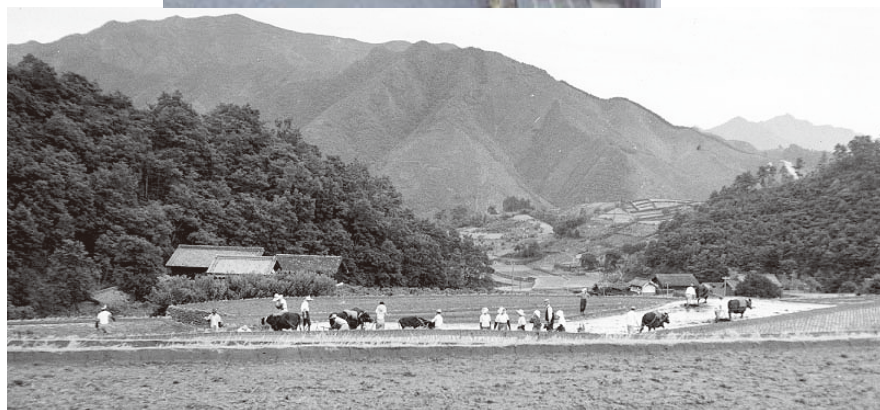
匠をたずねて 6

このコーナーでは「松阪牛のふるさと」といわれる飯南町で、古くから松阪牛の肥育に力を注いでいる人たちを連載で紹介しています。

もともとは牛飼いになるつもりはなかったという栃木さん。17歳のとき、家畜商の手伝いをしたことをきっかけに、牛の世話をするようになり、昭和50年から、自らも牛を飼うようになった。

ことし64回を数えた松阪肉牛共進会にも数々の名牛を送り出し、歴史を見守ってきた。「昭和55年に1席をとった森本宇助さんが育てた、はるこは素晴らしい牛だった。当時900万円という高値で落札された」と、栃木さん。昭和50年ごろまでは今ほど牛肉の需要もなく、共進会ですべての牛が売れるわけではなかったという。そんな中で「はるこ」の高値は注目の的になったという。

栃木 浩郎さん(81) 松阪市飯南町深野 (その2)



「牛はとっても賢い動物」と語る栃木さん。

農耕用として人と一緒に働いていた時代は、掛け声ひとつで歩いたり、止まったり。「例えば、田を耕していても、ワアと言えぱ立ち止まる。農耕作業が終われば、手綱さばきひとつで、自分の家へと帰っていったもんだ」と、振り返る。

「昔は人も牛も、今よりはるかにのんびりとしていた。時代は変わったけれど、牛への接し方は今も昔も同じだよ。」 つづく

信頼の証です 松阪牛個体識別管理システム

シールに印字された10ケタの個体識別番号で松阪牛の血統や農家の情報、移動履歴などを知ることができます。

皆さまに安全で安心な松阪牛をお届けする証を目印にお買い求めください。



発行 松阪市役所農林水産課畜産係 三重県松阪市殿町 Tel.0598(53)4119
平成25年12月 松阪牛協議会ホームページ <http://www.matsusakaushi.jp> もご覧ください